

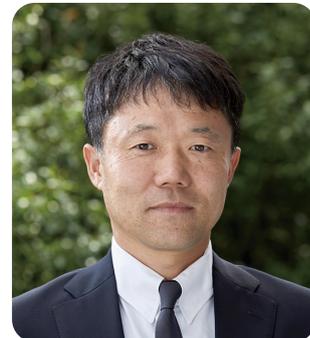
講演

1

海洋流出マイクロプラスチックの汚染実態と生物影響

資源循環領域 資源循環基盤技術研究室 室長 鈴木 剛

マイクロプラスチックによる海洋汚染は、マイクロプラスチックの効率的な回収が困難であることや生物・生態系への悪影響が懸念されることから、国際社会で対処すべき喫緊の課題となっています。海洋流出マイクロプラスチックは、河川を通じて流出するもの、海岸で劣化して細くなったもの、海流によって外国から来るものなど、流出元や環境中での履歴によって、材質、サイズや形状、劣化の程度、含まれる化学物質の量、生物への影響が異なると考えられます。私たちは、どのようなものが、どこからきて、どこに行くのか、そして、たどりつくところで生物に悪い影響がおきるのか、三年間かけて調査してきました。わかったことを、皆さんと共有して、この問題を考えたいと思います。



講師プロフィール

鈴木 剛 (すずき ごう) 先生

資源循環領域 資源循環基盤技術研究室 室長

経 歴

岩手大学大学院連合農学研究科修了（2005年3月農学博士）。国立環境研究所循環型社会形成推進・廃棄物研究センター ポスドクフェロー、愛媛大学沿岸環境科学研究センター 日本学術振興会特別研究員（SPD）、Vrije University Amsterdam IVM 客員研究員、国立環境研究所資源循環・廃棄物研究センター 主任研究員等を経て2024年4月より現職。環境省 海洋環境を含むプラスチックごみ流出量インベントリ検討会委員、海洋プラスチックごみによる生物・生態系影響把握等業務リスク評価検討委員会委員・ばく露等評価分科会委員、河川・湖沼におけるプラスチックごみの海洋への流出実態調査検討会委員等を務める。

河川表層水 自然通水法

ろ水量：10～15 m³

河川におけるマイクロプラスチックの採取風景